実践のまとめ（第６学年　外国語科）

新発田市立豊浦小学校　　教諭　吉田　薫

１　研究テーマ

自分の思いや考えを主体的に表現しようとする児童の育成

２　研究テーマについて

(1)　研究テーマ設定の意図

日々の授業を振り返ってみると、英語が得意、苦手に関わらず、児童が「英語を話せるようになりたい」という肯定的な思いをもちながら授業に取り組んでいることを感じる。それが授業を実践するエネルギーになっている。その思いを達成感や自信につなげていきたい。そのためには、「伝えたい」「聞きたい」といった主体的に学習に取り組もうとする態度が一番の土台となると考える。

本研究では、児童の「伝えたい」「知りたい」という思いを引き出し、自分の思いや考えを主体的に表現する児童の育成を目指す。

(2)　研究テーマに迫るために

①　コミュニケーションを行う目的、場面、状況を明確にした言語活動（単元のゴール）の設定

コミュニケーション活動を行う目的、場面、状況を児童と共有することで、児童の主体性を引き出し、持続させることができると考える。児童が目的意識をもって取り組むことを最も大切にしていきたい。目的意識があるからこそ、児童の主体性が表出されると考える。

②　振り返りシートを用いた継続した形成的評価

児童の「英語を話せるようになりたい」という思いを大切にしていく。外国語の授業では、単元のゴールにパフォーマンス課題を取り入れることが多い。パフォーマンス課題に向けて努力する児童の姿や児童が感じている不安、資質能力の伸びを行動観察や振り返りシートで把握し、フィードバックしていきたい。一人一人の主体的に学習に取り組む態度を支援していくことで、自分の思いや考えに自信をもつことにつながる。そして、主体的に表現しようとする児童の姿に近づけていきたい。

(3)　研究テーマにかかわる評価

次の２つの観点から評価を行う。

①　振り返りシートに、単元のゴールに向けて学習を進めている記述が 80%以上。（振り返りシート）

②　自分の伝えたいことについて、「英語で伝えることができた」、「相手のことを理解しようとした」と評価する児童が 80%以上いる。（アンケート）

３　単元と指導計画

(1)　単元名

Lesson4 I am hungry. 様子や特徴（CROWN Jr.　三省堂）

(2)　単元の目標

・自分の大好物や大切なものについてよく知ってもらうために、自分の考えを整理し、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。【話すこと（発表）】（イ）

(3)　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと［発表］	＜知識＞ 様子や特徴を表す表現について理解している。 ＜技能＞ 自分の大好物や大切なものについて、様子や特徴を表す表現を用いながら、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。	相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分の大好物や大切なものについて、様子や特徴を表す表現を用いながら、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。	相手に自分のことをよく知ってもらうために、自分の大好物や大切なものについて、様子や特徴を表す表現を用いながら、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。

(4)　単元と児童

本単元で扱う言語材料は、large-small や long-short などのものの様子や特徴を表す語句や表現である。これらは生活経験と結び付けて想像できるため、比較的理解しやすいものである。これらの言語材料を活用して「大好物」や「大切なもの」を紹介する言語活動を設定する。自分の好きなものを紹介することは、「自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。」という学習指導要領の話すこと［発表］の目標に合致する。

また、本単元は、卒業まで残り半年となる時期に設定されている。そのため、本単元のゴールをこのように設定する。

明日から 10 月です。卒業まで折り返し地点ですね。10 月 14 日（木）が卒業まで残り 100 日となります。なんか、あっという間ですね。

ジワリジワリと卒業が近づいてくる時期ということで、クラスの仲を深められる活動を用意します。それは、友達の「大好物」や「大切な○○」を知る活動です。

今回の学習では、様子や特徴を表す表現を学習します。それらを活用して「大好物」や「大切な○○（ペットやもの、人など）」をクイズ風に発表してみましょう。

友達のことを今よりも理解を深め、卒業に向けて安心できる、楽しいクラスをつくることにつなげていきましょう。

条件①　様子や特徴（small, big, hungry, happy など）を表す表現を使って発表する。

条件②　問いかけや呼びかけの表現を使って、聞き手を意識して発表する。

自分のことを知ってもらう言語活動を設定することで、「お互いのことをさらによく知り、学級の仲をさらに深めよう」という目的意識にもつながる。相手が驚いたり、興味をもったりする内容にしようと思考を働かせたり、「伝えたい」「知りたい」という主体的に学習に取り組んだりする姿が期待できる。既習の語句や表現も十分に活用できる題材であるため、知識・技能の定着も期待できる。そして、学級経営につながる活動でもある。

(5)　単元の指導と評価の計画（全６時間、本時５／６時間）

※「・」は指導に生かす評価。「○」は記録に残す評価

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・単元のゴールと学習計画を提示し、学習の見通しをもつ。		・活動の観察	○振り返りシート
2	・Panorama Talk（P.52-53）を聞き、ものの様子や特徴を伝える語句や表現を知る。 ・単元のゴールに向けての個人活動	・活動の観察	・活動の観察	○振り返りシート
3	・ものの様子や特徴を伝える語句や表現を用いて伝え合う。 ・単元のゴールに向けての個人活動	・活動の観察	・活動の観察	○振り返りシート
4	・自分の好きなものの様子や特徴、具体的なエピソードなどについて考えを整理する。 ・プレ発表（録画）	・活動の観察	・活動の観察、録画	○振り返りシート
5	聞き手を意識した発表について考え、発表の質を高める。	○活動の観察、録画	○活動の観察、録画	○振り返りシート
6	「大好物」や「大切なもの」を発表する。（発表）	○活動の観察	○活動の観察	○振り返りシート

４　本時の展開

(1)　ねらい

自分の発表の現状と伝わりやすい発表を比較することをとおして、ジェスチャーを用いることで発表の内容が伝わりやすくなることに気付き、聞き手を意識した発表をすることができる。

(2)　展開の構想

前時までに、発表内容について、様子や特徴、具体的なエピソードなどの情報を整理する活動やプレ発表を行っている。本時は、発表本番に向けて発表の質を上げることをねらう。

導入では、前時に児童が書いた振り返りを活用して、「聞き手に分かりやすく発表するには、ジェスチャーが大事」だという課題意識を児童と共有する場面を設定する。前時のプレ発表では、初めて本番の形で発表した。そのため、児童の意識は発音や声の大きさ、話すスピードに傾いていた。そこで、ジェスチャー無しと有りの動画を比較させる。ジェスチャーの重要性を確認させ、「ジェスチャーを取り入れて、自分やグループの友達の発表をバージョンアップさせよう！」という本時の課題を設定する。

展開では、グループワークの時間を設定する。児童同士での学び合いを活性化させるために、グループワークの仕方や取り組むことを明確に示す。また、グループワークの成果を学級全体に共有する時間を設定し、次時の本番に生かせるようにする。

(3)　展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される児童の反応	□評価　○支援　◇留意点
10	・本時の学習課題を設定する。	○挨拶をする。 ○前時の振り返りシートの内容を一部紹介する。 ○ジェスチャー無し、有り動画の比較をする。 ●ジェスチャーは大事。	○資料の提示を視覚的に分かりやすくなるように工夫する。
＜学習課題＞　ジェスチャーを取り入れて、自分やグループの友達の発表をバージョンアップさせよう！			
25	・グループワーク ①前時の動画を見る。 ②気付いたこと、アドバイスをまとめる。 ③練習する。 ④動画を撮影する。	○グループワークに取り組み、バージョンアップした動画を撮影しましょう。 ●small といってもどれくらいの大きさなの？ ●Please guess のところは、呼びかけのジェスチャーを入れてみよう。 ●食べる動作も、まるで寿司を食べるような動作にしてみると聞き手は絶対分かると思う。	○グループで取り組むことや順番を示したワークシートを配付する。 ○グループワークが進んでいないところに入る。 ◇途中で、全体で共有すべき気付きが出てきたら、全体共有の場を設定する。 □ルーブリックをもとに評価する。 知・技 思・判・表
10	振り返り	○振り返りシートを書かせる。	◇発表してみたいという児童がいたら、発表の場を設定する。 □ルーブリックをもとに評価する。 態

(4)　評価（ルーブリック）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	・誤りのない正しい英文で話すことができる。	・具体的なエピソードや自分の考えを詳しく述べながら、二つの条件を満たして発表している。	・具体的なエピソードや、自分の考えを詳しく述べながら、二つの条件を満たして発表しようとしている。 ・友達とよいところを認め合いながら、自分を成長させようとしている。
B	・誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	・二つの条件を満たして発表している。	・二つの条件を満たして発表しようとしている。
C	・B を満たしていない。	・B を満たしていない。	・B を満たしていない。

５　実践を振り返って

(1)　指導の実際

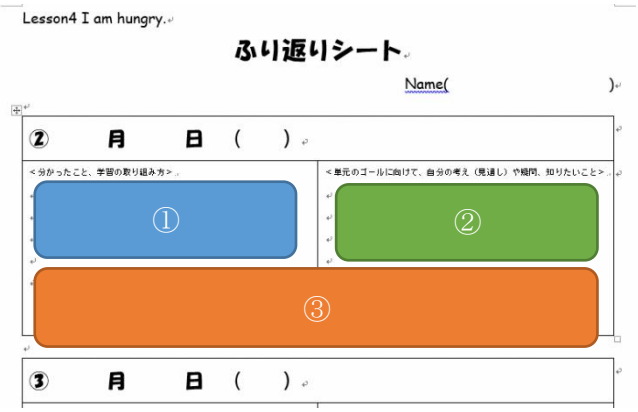
①　単元のゴールを共有し、活動の見通しをもたせる

まず、自分の「大好物」や「大切なもの」をクイズ形式で発表するという単元のゴールを提示した。卒業まで残り 100 日となる節目のタイミングで行うことや、友達のことをさらによく知ることで学級の仲を深めることができるという場面設定や目的意識を共有した。

次に、発表の内容にかかわる「大好物」や「大切なもの」について自分の考えや思いを整理するためのワークシートの記入に取り組んだ。ワークシートには、様子や特徴を表す言葉やエピソードを書き込んでいった。この作業をとおして、発表内容の見通しをもったり、活動に向けた意欲を高めたりする姿が見られた。「見通しをもてた。次の時間はどのような単語を使えば良いのか調べる。そして、みんなに伝わるような表現を考えていきたい。」や「みんなが楽しめるクイズを作りたいと思った。」という振り返りの記述もみられた。

発表内容の見通しをもてたことは、第２時からの様子や特徴を表す言葉の学習にもつながった。

②　振り返りシートを用いた継続した形成的評価



単元のゴールに向けて、児童の学習に取り組む態度を支援していくために、振り返りシートを用いた。

①には、＜分かったこと、学習の取り組み方＞の授業ごとの感想を書いていく。

②には、＜単元のゴールに向けて、自分の考え（見通し）や疑問、知りたいこと＞の単元のゴールに向けて自分の考えを固めていくまでの過程を書き溜めていけるようにした。

③には、教師によるコメントを書いた。学習に取り組む態度に対する称賛や児童がもった疑問、知りたいことにコメントしていった。毎授業の中に単元のゴールに向けた個人活動の時間を設けていたため、②に対するコメントをすることが多かった。例えば、ポテトチップスが大好物である児童が、「ザクザクやパリパリは英語で何と言えばいいのか」という疑問をもった。それに対して、「google 翻訳で検索してみると分かるよ！」とコメントをした。児童は、次の時間に google 翻訳を用いて crispy や crunch という語彙を獲得した。そして、本番の発表にも役立てることができた。このように、自分の考えをどう英語で表現できるのか分からないという疑問や知りたいことを表出させることに有効であった。そして、それに対する教師によるコメントをもとに自分の考えを固めていくことができるようになった。

このような、児童一人一人と教師によるやり取りを繰り返すことで、継続した支援、評価を行っていった。学級全体で共有するべき記述が見られた場合は、テレビの大画面で内容を紹介した。友達の気付きを自分に取り入れる児童の姿も見られた。

③　プレ発表

発表内容を整理した後、プレ発表会を行った。録画機能を活用し、自分の発表の様子を繰り返し見ることができるようにした。１回目の発表だったため、正確に発表しようとしすぎて緊張していた児童が多かった。また、録画が早く終わった児童には、教務室の職員に発表してみるという追課題も用意した。追課題に取り組むことができた児童は、「早口過ぎた。もっとゆっくり話さないと伝わらないと感じた。」や「ジェスチャーがあると伝わるようになるのかな。」など、実際の相手とのやり取りを経験したことにより、今後の課題を明らかにすることができた。

④　友達同士でアドバイスをし合う

単元のゴールの発表本番の前、自分の発表をより良いものにするために、録画したものを活用してアドバイスし合う活動を行った。前時の児童の振り返りから、「ジェスチャーを取り入れると伝わりやすくなる」という気付きを全員と共有するべきだと考え、本実践の本時の課題を「ジェスチャーを取り入れて、自分やグループの友達の発表をバージョンアップさせよう！」として設定することにした。そのために、ジェスチャー無しと有りのお手本動画を視聴した。ジェスチャーがあることで内容の伝わりやすさが格段と上がることを実感することができた。また、「話すスピードが速すぎると聞き取れないこと」もより良い発表にもつながると伝え、アドバイスするための視点を整理してから児童同士でアドバイスし合う活動を始めた。「たくさんアドバイスをもらって、見直すところが多くありました。次は発表なので、『間の取り方』　『ジェスチャー』『前を向く』の３つを意識したいです。」という振り返りが見られた。このように、児童は録画したものを見せ合い、良いところや改善点を自由にアドバイスし合うことができた。そして、自己の状態を確認し、本番の発表に向けためあても設定することができた。

(2)　研究テーマにかかわって

研究テーマにかかわる評価について ①振り返りシートに、単元のゴールに向けて学習を進めている記述が 80%以上いる。（振り返りシート） ②自分の伝えたいことについて、「英語で伝えることができた」、「相手のことを理解しようとした」と評価する児童が 80%以上いる。（アンケート）

①振り返りシートに、単元のゴールに向けて学習を進めている記述が 80%以上（振り返りシート）

振り返りシートには、＜分かったことや気付いたこと＞や＜単元のゴールに向けて、見通しをもてたことや知りたいこと＞という書く視点を示し、記述していった。それらの中に、「友達から□□というアドバイスをもらったから、○○していこうと思った。」という記述や「ジェスチャー」「話すスピード」というキーワードが入っているかどうかを評価の基準とした。

結果は、１４人／２４人で【58%】であった。80%という数値目標には届かなかったが、６割の児童が単元のゴールに向かって主体的に学習していたことが分かった。単元のゴールの提示、共有したことで活動の見通しをもてたことや、プレ発表など発表する場を複数回設けたことが単元のゴールに向けて学習を進めることにつながったのではないかと考える。

一方で、４割の児童は自分の発表の最終的な姿を具体的に考えられていなかった。授業の最後に「まとめ」を設けなかったことが要因なのではないかと考える。振り返りシートの記述をできるだけ全体で共有してきたが、十分ではなかった。コミュニケーションのポイントをまとめるなどの手立てが必要だったと感じた。

②自分の伝えたいことについて、「英語で伝えることができた」、「相手のことを理解しようとした」と評価する児童が 80%以上いる。（アンケート）

（表１　児童 24 人のアンケート結果）

	楽しい活動だった	まあまあ楽しい活動だった	どちらでもない	あまり楽しい活動ではなかった	楽しい活動ではなかった
相手に伝えること	23	1	0	0	0
相手のことを知ること	24	0	0	0	0

「英語で伝えることができた」も「相手のことを理解しようとした」も肯定的な回答が 100%であった。これは、単元のゴールに設定した課題が児童にとって「伝えたい」「知りたい」と思える意味のあるものであったことが要因だと感じる。児童のアンケート（自由記述）からは、「みんなに当ててもらって楽しかった。」「みんなに自分のことを知ってもらえた気がして楽しかった。」「大好物や大切なものを知ることで、みんなのことを今よりもよく知れた気がした。 多くの人が意外なものを『好き!』と言ってて『へ〜!そうなんだ〜。』と思ったし、 楽しかった」などの回答が見られた。クイズ形式にして発表するという課題設定は、伝える側にも聞く側にも楽しい活動になった。

【まとめ】研究テーマにかかわって
・全員でポイントをまとめる手立て（まとめ等）があると良い。
・「伝えたい」「知りたい」という思いを生む言語活動は、児童にとって楽しく学習することにつながった。また、やってよかったと思える有意義な活動となった。

(3)　今後の課題

「児童が主体的に学習する」とは、どのような姿なのか。今後は、この点についてより具体的に考えていかなければならないと感じた。

本実践では、児童が「伝えたい」「知りたい」という思いをもち、課題に向かって楽しみながら学習に取り組んでいる」ことを主体的に学習する姿とした。私は、「楽しむ＝自ら進んで学習に取り組んでいる」と捉えている。しかし、児童の振り返りシートやアンケートの結果から、楽しみながら学習はしているが、「学び」を深められていない児童が多くいたことに気付かされた。本実践の場合、クイズ作りや友達との対話を楽しんでいるだけで、「ジェスチャー」や「話すスピード」の有効さに気付き、表現できた児童は６割だった。４割の児童はコミュニケーションにおける「ジェスチャー」や「話すスピード」などの有効さについて、自分事として考えられていないように感じた。つまり、「楽しむ＝自ら進んで学習に取り組んでいる」と当てはまるわけではないと気付かされた。

コミュニケーションの出発点としては、「楽しい」という感情を生むことは大切であり、単元のゴール作りにおいて欠かせない要素である。「楽しい」を含んだ「児童が主体的に学習する」姿について、今後も考察していきたい。